

カトリック六甲教会 教会報

2012

11

No.491

信仰の対象

ダニエル・コリンズ神父

今年も早いもので、来月には待降節をむかえます。2000年前に人間の赤ちゃんとしてこの世にお生まれになったキリストを思い出し、その誕生を祝うのがクリスマスです。しかしその出来事は過去のことであって、もう一度キリストが赤ちゃんとして、現在の私たちの歴史に入ってくることはありません。

2000年前に生まれたその赤ちゃんは、両親の愛に育まれ、健やかに成長し、人々に語りかけ、大勢の人を癒しました。その後、その方は人の罪を一身に背負って、苦しみを受け、十字架上で死に葬られ、復活されました。現在いらっしゃるキリストは、正にこの“復活されたキリスト”です。

私たちは死後、天に帰って初めて神様に会おうと考えがちですが、実際には神様はもう私たちのところに来られているのですから、私たちはすでに神様に会っているはずで、私たちは死んで初めて神様の恵みに与ることができると考えがちですが、実際にはすでに今その恵みをいただいているのです。

ですから、私たちは、2000年前の過去のキリストでも、死後に会おうはずのキリストでもなく、今のキリストに会わなければなりません。福音を読むと、キリストはとりわけ、貧しい人、捨てられた人、嫌われた人の中にいらっしゃいます。しかし、そういった虐げられた人たちの中にだけおられるのでありません。どの家庭にも、どの学校にも、どの職場にも、どの町にも、神戸の街にも、この六甲教会にもいらっしゃるのです。私たちは人間ですから、キリストを実際に目で見て、触れることはできませんが、復活のキリストは必ずそこにおられます。どこでもお会いすることができます。

将来に出会うキリストばかりを考えすぎて、今のキリストに出会っていても、それに気づかないでいることが多いのではないのでしょうか。パウロは言っています：「形になっていないものが私たちの信仰の対象である」と。私たちの信仰の対象は、今の復活されたキリストです。形になっていないのですから、目で確かめることはできませんが、だからこそ信じるのです。それが信仰です。死後のキリストとの出会いのためにではなく、今のキリストとの出会いを求めて、目を開きましょう。心を開きましょう。そしてキリストに任せましょう

忘れないで・東日本の被災地から(8)

一つの部分が苦しめば・・・

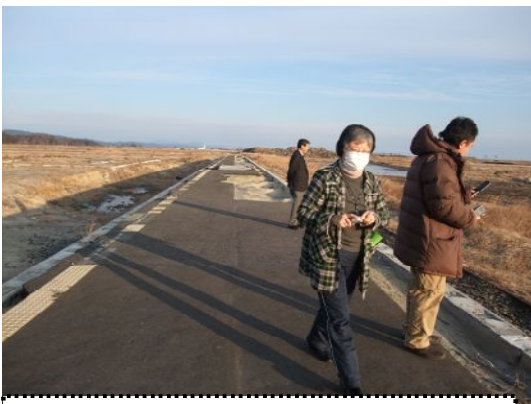
私は昨年7月に釜石ベースで8泊のボランティアをさせていただきました。主な仕事はボランティアさんとスタッフのための食事作り。結構ハードでしたが、皆心が燃えていて、ベース全体がまるで「初代教会のようだ!」と感じ、そこにいるのは楽しいと思いつけることができました。一步教会の外に出れば、3・4軒下の道路沿いの家々は津波に襲われて、街全体が廃虚のようになってしまっていました。そんな中でも、八百屋さんが1軒ありました。戸は全部なくなって、柱は傾き、床もなくいきなり土間。土の上に段ボール箱を逆さにして並べ、その上にプラスチックのザルを乗せて、キュウリやナスなどの野菜を売っていました。欲しかったショウガ1かけらを買うことができました。戦後の日本もこのようだったのかなと思いつながら、お店を開いてくれていてありがたいと思いつました。そして、人はいざとなれば何としてでも生きられるのだと、人間のたくましさ、頼もしさも感じました。



釜石港の防潮堤に突き刺さった大型船

私は約束のお勤めを終えた後1日残って陸前高田の朝市のグループに入れていただきました。帰りがけに運転手のボランティアさんは被災した市街地を通り、そして海岸沿いの道路を走ってくれました。リアス式海岸沿いに次々と町が現れて来ました。3方が山に囲まれていて、海から来た津波は山に行く手を遮られて水かさが増し、町が深い水に飲まれる・・・どこの町も皆同じパターンでした。被災した町の多さに驚き、東日本がいかにか広い範囲で被災したのか改めて意識しました。そして、「私も何かしなければならぬ、何かしたい!」と強く思いつました。

それから数か月して、管区長から「年末に東京教区の車が出るので、一緒に南相馬の原町に行ってください」と頼まれました。たまたま同じ神戸修道院にいるシスターの従兄さんが原町教会の近くに住んでおられるので、車で被災状況を見せてもらい、仮設を訪ねることもできました。



駅舎と内陸側の線路を持って行かれた
JR 坂元駅

また、梅津明生神父様が仙台の老人ホームに新年のミサを捧げに行かれるのに同行させて頂き、福島から仙台にかけての海岸線の被災状況を知りました。岩手のリアス式とは違い、海岸線はほぼ一直線で平地。津波は勢いに任せて内陸側に2キロも押し寄せていました。この訪問がきっかけで、その後も原町に出かけることになりました。

5月末、原町ベースの開所式に出席するために、福島から阿武隈高地を通って原町に向かうバスに乗ると、田んぼには整然と並んだ緑色の稲が育ち、太陽に照らされた水田の面はキラキラと輝いていました。

ところが、飯館村に入ると人気もなく、田んぼは荒れ果てて草は伸び放題。道路わきには葦が人の腰の高さほどにも育っていました。つい1年程前までここで暮らしていた方々は今どこで生活しておられるのだろうか？いつ戻って来られるのだろうか？と原発禍の被災地の方々の苦しみを強く感じさせられました。



苗が育って水面が光る水田



汚染のため手を入れられない田んぼ



原町教会主日のミサ：祈りのボランティアも

原町区は福島原子力発電所から半径 24.5 キロのところであり、一時は自主避難が勧められて、ほとんど空になった町です。教会の敷地には大きなヒマラヤ杉が何本もありましたが、除染のためにすべて根元から切られています。幼稚園が併設されていますが、80 人くらいいた園児が今では 20 人くらい。

敷地の入口にはガイガー計が設置されています。

そして、8 月に行ったときは、使っていない教室を砂場に変える工事が行われていました。子供たちを外で遊ばせることができないからということでした。

南隣の小高区の住民は半径 20 キロ以内に住んでいた多くの方々が仮設住宅や借り上げ住宅に避難しておられます。

4 月 16 日に「立ち入り禁止」が解除になり、人々は自分の家に戻るべく、準備を始めました。しかし、1 年ぶりに家に帰ったら、屋根にブルーシートをかけておいたのに、畳にキノコが生えていてがっかりきてしまい、もう帰る気がなくなった、という人もいます。また、「あんなに嚴重に装備しないと家に行けなかったのに、どうして急に何の装備もしないで家に帰っても良いと言うことになるの？状況は何も変わっていないじゃない。家には戻らない」という人もあります。また、「私の家は立ち入り禁止区域の百メートルくらい外です。保障はなく、でも風評被害は大きいから農業をしても作物は売れないでしょう。どうやって生計を立てればよいのか分からない」という人もおられます。

原町には 4 回行きました。一人ひとり置かれている状況が違うことも感じられます。何をどう手伝えれば良いのか分からないほど問題は複雑で、課題も多いようです。しかし、自分も被災しているのに、他の被災者を助けようとしている方々が沢山おられます。

「体は一つでも多くの部分から成り・・・一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に痛み・・・」

(1 コリ 12 : 12, 26) とあります。私は微力ですが、これからも被災者の方々と連帯していきたく思います。

(シスター小沢京子 六甲教会員、マリアの宣教者フランシスコ修道会会員)

2012 Rokko Catholic Church

チャリティーバザー

お楽しみ♪
いろいろ♪
盛り沢山

香の市
古着
手芸品
手作りお菓子
など

愛を届けよう
Charity Bazaar

どなたでも♪ご自由に
お越しください!

11月11日(日) 雨天決行
9:00 ミサ後 ⇒⇒⇒
AM 10:00 ~ PM 2:00

カトリック六甲教会
神戸市灘区赤松町3-1-21 ☎ (078) 851-2846

前日・当日は、駐車場は使えませんので
お車でのご来場はご遠慮ください。

お友達や近隣の方にもお声掛けしてください。



旧約聖書講座(雨宮神父)に参加して

9月22日・23日の午後、今年も雨宮慧神父さんの講演会が行われました。昨年のモーゼについてのお話の続編ということで、楽しみにして参加しました。ところが配られる資料を見ると、「主の祈り」というので危ぶんでいるうちに講演が始まりました。

毎日たびたび祈る機会のある「主の祈り」についてのお話であったので、とても興味深く、有意義な勉強ができました。雨宮神父さんのゆっくりと淡々とした静かな語り口での講演は、聖書の①逐語的訳、②旧約聖書的な背景、ときに③新約聖書における参照箇所と豊富な資料を見ながらの説明は確かな説得力を持って心に届いてきます。今年も2時間ずつ合計4時間の充実したおもしろいお話でした。

特に興味深かったのは、祈りの冒頭の『父よ』の呼びかけについて、あなた(神)への3つの祈りと私たちのための3つの祈りのうち、後半の部分、『日ごとの糧』と『今日』のかんけい、それと私が『ゆるす』のは、先か後かという問題についての考察のところでした。

主の祈りの原本に当たるマタイとルカの記述の比較をして、わざわざマタイは『天におられる』と追加していることや、また神に対して『父よ』と呼びかける『アッパ』という語が、旧約やユダヤ教の祈りには出てこ

ないことから、当時のアラマイ語で用いられた信頼と親しみをこめた家族内での用語（雨宮師は言われなかったけど『お父さん』とか『父ちゃん』というところか）を使っています。詩編 103 の憐み深い神や「放蕩息子」の父親のイメージでの呼びかけで「主の祈り」は始まっています。

『糧』は文字通りのパン＝食物についての祈りであり、生命維持のために必要な「今日、明日のためのわれわれのためのパン」を願う祈りであり、社会的に困窮した状況での切実なもので、多くの人たちに開かれた祈りとなっているという結論に至るまでの考察はとても興味深いものでした。

『罪(負債)をゆるす』については、カトリック教会の古い訳の「われらがひとにゆるすごとく」と新しい訳の「わたしたちもひとをゆるします」は、神のゆるしとの順序関係が、少し異なる(ニュアンス)のではないかといわれてきた問題でもあります。この「先にゆるすのか」「後にゆるすのか」については、『聖書』が書かれているギリシャ語とイエスが話すのに使ったアラマイ語では時制の区別がずれているというか、ギリシャ語では時間的配列が明確に指定されるのに対して、アラマイ語やヘブライ語では、あいまいというか時間を超越して思考されているということでした。つまり、「ゆるす」＝「神の与えてくれたよい関係に戻る」ということで、「罪や咎を免ずる(広辞苑)」の意味ではないということでした。

他にも「御名が聖とされる」や「御国」、「試み」と「誘惑」など、あつという間の講演でした。お話しを訊くことによって、神から私たちへの望みが、「いつも喜ぶこと・絶えず祈ること・どんなことにも感謝すること」であり、「主の祈り」がその具体的な形であることがわかりました。

来年も秋にまた講演に来られます。今から楽しみにお待ちしております。 (飯塚)

《各部だより》

📖 典礼部

・11月17日(土) 典礼部会はお休み

📖 養成部

・11月 3日(土) 10:00 祈りの道場
15:00 ミサ (主聖堂)

📖 宣教部

・11月24日(土)10:00~16:00 秋の黙想会

📖 社会活動部

・11月の炊き出しはチャリティバザー準備で中止

★社会活動部★

- 11月 2日(金)初金ミサ後 ♪社会活動部連絡会(第2会議室)
チャリティバザーの連絡です。グループのどなたかが必ず出席願います。
- 11月 7日(水)10:00~ ♪手芸の手伝い(第1,2会議室) どなたでも参加出来ます。
- 11月10日(土) ♪炊き出しはお休み。次回は12月22日(土)
- 11月15日(木) ♪ベタニアの集い(イグナチオホール) 聖体拝領&茶話会 奇数月第3木曜
- 11月18日(日)10時ミサ後 ♪ふれあい広場(イグナチオホール) お弁当・食料品・手作り作品等の販売
- 11月30日(金)9時30分 ♪ともしびケーキづくり(お台所)

六甲教会宣教部主催 2012 秋の黙想会

無償の恵みを受け取るために



「教会の教えを守り、秘跡に参加し、教会や聖書の言葉に従って生活する。そんな私の信仰を神様はどう評価されているのでしょうか？ 本当に十分に信じているのでしょうか？ 誠実に信じていると思いたい。それでも足りないところはどうしましょう？ 神様からの無償の恵みを受け取ればよいのです。それには恵みを頂く姿勢を整えることが必要です。」

教会報 9月号巻頭言より ダニエル・コリンズ師

★ 日時：11月24日（土）10:00～16:00（15:00～教会聖堂でミサ）

★ 場所：六甲学院生徒研修所（六甲教会より北上160mザビエル・ハウス敷地内）

指導：コリンズ神父

会費：無料

対象：どなたでも

昼食：各自持参（温かいお茶は用意します）



会場準備の都合上、参加ご希望の方は下記の申込書を六甲教会にご提出ください。

Fax. 078-851-9023でも受け付けます。当日参加も歓迎

お問い合わせはカトリック六甲教会事務局（TEL078-851-2846）まで

- 入門・育成講座の新クラスがスタートしています。
 - ・コリンズ神父 入門講座…… 第1、第3日曜日 10時ミサ後、第5会議室
- チャリティーバザー寄贈品として、「ビール一人、1本持ち寄り」をお願いします。また「蚤の市」の寄贈品をお願いします。
- 11月17日（土）9:00 教会大掃除 多くの方の参加をお願い致します。
- 11月17日（土）16:00～ 元六甲学院校長栗本神父さんの金祝ミサが行われます。六甲教会とも縁のある神父さんです。時間のある方は是非、お越し下さい。

★ 墓地っ子だより ★

墓地の安全、美観工事が進んでいます。

- ひび割れの入った階段の改修工事
A 地区～C 地区の階段のひび割れ箇所の改修を行いました。
- C 地区、共同墓地の植栽
C 地区周辺に金木犀、共同墓地にローズマリーを植えました。



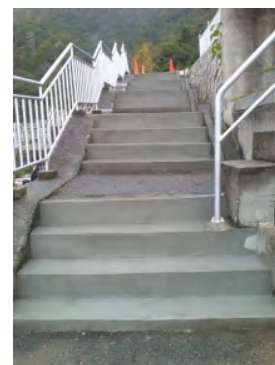
ひび割れ箇所



ひび割れ箇所



改修後



改修後



みんなの広場

諸聖人の通功

ヨハネ 三好

「聖徒の交わり」と呼ばれるこの信条は、永らく「諸聖人の通功」と呼ばれていた。言葉を聞いただけではピンとこない。朝晩の祈りでもともすればふわりと飛び越えてしまう。すべて宗教、信仰は個人限りのものであって他とは関わりがない、社会の中であって自分の信仰を云々することがタブー視されている。この風潮が教会の中にまで浸透しているのではないか。主日のミサ前後でも世間話はしても互いに信仰を語り合うことはない。確かに信仰は心の内奥のことであるとは言える。だがなぜ日々口にする「使徒信条」の中で「聖徒の交わり」を信じますと宣言するのだろうか。

カテキズムは「聖徒の交わり」をこう要約している。

960：教会は「聖徒の交わり」です。この表現は、まず、「聖なるもの」、分けてもエウカリスチア（聖体）を表しています。このエウカリスチアによって、「キリストにおいて一つのからだを構成する信者の一致が表され実現します」。

961：この表現は又、「私たちのために死なれた」キリストに結ばれている「聖なる人々」の交わりを意味します。事実、各自がキリストにおいて、キリストのために行いあるいは苦しむことは、すべての者に実りをもたらします。

962：「わたしたちはキリストを信じるすべての者、すなわち地上に旅する者、自分の清めを受けている死者、また天 国の至福にあずかっている者たちが、皆ともに一つの教会を構成していることを信じま

す。またこの交わりについては、……神と聖人たちがあわれみ深い愛をもってわたしたちの祈りに耳を傾けていることを信じます」。

「『聖徒の交わり』というとき、私たちは何よりも、キリスト者相互の愛の交わりを意識するはずで、その愛の交わりはキリスト者相互の生活の分かち合いをも含むものであると言うことを忘れてはならないような気がします。信仰は私と神との個人的な結びつきだけを言うものではありません。キリスト教信者は本質的に『交わり』の要素をもっています。神そのものが『父と子と聖霊の交わり』であり、その交わりにキリスト者はあずかるのです。交わりのない信仰は、信仰を私事化する危険があります。そのような信仰はキリスト教信仰としては不十分だと言ってもよいと思います。『主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが皆さんとともに』という挨拶は、キリスト教信仰の本質を示すものであり、『聖徒の交わり』はそこに位置づけられる大事なもののなのです」。李聖一師はその著「希望のアポロギア」の中の一章「聖徒の交わり」をこう結んでおられる。

11月1日は「諸聖人の祭日」、2日は「死者の日」、霊肉併せ持つものとして創られた私たちにどちらか片方だけの交わりはできないはず。ともすれば口先だけになる「聖徒の交わり」を心に留め体感できますように。神は既に人類に備えてくださっている。

10月の教会報に松村神父様が思い込みのことを書いてくださった。何かを思い出すときばかりでなく何かを引用するときは特に危ない。わかっているつもりだがつい!!!

教会報 12月号の発行は、12月2日(日)です 編集会議 11月25日(日)です。 記事原稿は、11月18日(日)正午までに信徒 会館受付へご提出願います。(広報部) http://www.rokko-catholic.jp	カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21 電 話 078-851-2846 F A X 078-851-9023 発行責任者 松 村 信 也 編 集 広 報 部
---	---